

3/18臨時医療安全講習会資料より

**福島からの患者さんを受け入れるにあたって
電話での問い合わせ時、外来受付時の問診**

①今回の原発事故の後、原発の近くの領域では、避難の指示や屋内にとどまるよう指示が出ましたが、あなたは、その対象地域にいらっしゃたのですか？
 いいえ、別の場所です。
 はい ②の質問へ

②原発事故の後に、放射線を出す物質が身体に付着していないか検査をし、大丈夫と言われましたか？
 はい 大丈夫と言われた
 いいえ 大丈夫でない
 検査をしていない → 当院で体表面の汚染をチェック

**円の外に住んでいる方は通常診療
円の中でも、検査を受けて大丈夫だった方は通常診療**

福島からの患者さんを受け入れるにあたって

・「被ばく」と「汚染」の区別

放射性物質（放射線源）から出た「放射線」を体に浴びることを「被ばく」と言います。放射性物質が体外にある場合には、体の外側から被ばくしますから「外部被ばく」と言います。放射性物質が体内に入った場合には、体の内側から被ばくしますから「内部被ばく」と言います。

「放射性物質」があるべきでない場所に付着することを「汚染」と言います。

福島からの患者さんを受け入れるにあたって


・「被ばく」と「汚染」の区別

(A)外部被ばく (B)体表面汚染 (身体・衣服) (C)刺傷部位汚染 (D)内部被ばく

被ばくの形式

福島からの患者さんを受け入れるにあたって

・「体表面の汚染があった場合」



体表面から放射線！ 誤った
怖い！ 判断です
近づきたくない！


ちょっと待って！

- 核医学検査(骨シンチ、脳血流シンチ、...)を受けた患者さんのそばに近づいたことはないの？

シンチ検査と比べると
(B)体表面(身体) 全く表面からは出ていないと考えて良いレベル
(取り除かなくても、医療従事者には無害)

福島からの患者さんを受け入れるにあたって

・「体表面の汚染があった場合」



何もしなくてよい？


→汚れがいろいろなところに広がったら困る

安心して、
対応・介助
してください

→除染(拭き取る、洗い流す)
(放射線部・RIセンター中心)

→通常診療へ

「体表面の汚染」→ペンキが付いていると思えばよい



- ① ペンキが塗られたものを包む
- ② ペンキが付いてもよい装備をする
 - ・ 室内の養生
 - ・ 服装
 - ・ マスク
- ③ ペンキを洗いおとす(除染)

NPS&A 2010
原子力安全研究協会資料より

(3) 体表汚染があるかもしれないが、直ちに救急処置が必要な方

日中、夜間ともに、来院時の状態によっては、すぐに救急処置が必要な場合もあり得る(放射能測定や除染よりも処置が優先)

このときは外来担当医に以下の様に対処していただく。

- ① 汚染が広がらないように、可能な範囲で患者をシーツでくるみ、またストレッチャーなどもシーツや敷布でくるんで、救急部10番の陰圧室に運ぶ。そのまま救外診療担当医へ(マスク、手袋、ガウン、帽子を着用し、素手で触らない。使用後のシーツや手袋などはビニール袋へ)。
- ② 医療行為が落ち着いたところで、担当放射線科医をコール。(患者のサーベイ、必要なら除染を行う)。